

MORIOKA YMCA NEWS

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、子ども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. 子どもたちの個性を大切にし、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

8月号 キャンプで夏を満喫！！



発行人：濱塚有史 編集人：家村知佳 発行所：特定非営利活動法人 盛岡YMCA 岩手県盛岡市本町通3-1-1
TEL 019 (623) 1575 e-mail: morioka@ymcajapan.org URL: <http://www.ymcajapan.org/morioka/>

盛岡YMCAに来て

石室綾子（関西大学商学部商学科4年 大阪東YMCA チロルリーダー）

「盛岡のYMCAのキャンプ参加してみやん？…」6月中旬、私が所属するYMCAの所長から突然今回のキャンプの話があり、私は迷わずこちらのキャンプの参加を決めました。

今回、大阪YMCAからは私を含め4人のリーダーが参加しました。それぞれ所属しているYMCAが違うので、ほぼ初対面の状態で新大阪駅を出発しました。

期待と不安を胸に、到着した盛岡YMCAは、キャンプの組み立て方やプログラムが予想をはるかに上回るくらい大阪YMCAと違っていたため、最初は戸惑いました。しかし、話し合いを重ねるうちに、盛岡も大阪もどちらも子ども達に対する想いや願いという根底の部分に大きな違いがないことに気づきました。

そうして臨んだ山のキャンプと湖畔キャンプ。どちらのキャンプも子ども達とリーダーのイキイキとした笑顔がとても印象的でした。いつの間にか大阪弁で話す子が続出し、ノリツッコミをマスターしたいと練習に励む子がいた

り、食文化の違いに驚いたり、お互いが多い話題に出会えたキャンプになったのではないかと感じています。

普段と違う生活を経験し、新しい仲間と共に過ごすキャンプは、何か新しい発見があり、自分自身を見つめなおす機会が増える大切な時間だと思います。

今回、盛岡YMCAに来させていただいて、子どもたちやリーダー、スタッフ、一人ひとりとの出会いの中で、いろいろなことを感じたり、考えたり、本当に数えきれないほど多くの学びがありました。出会いは人を成長させてくれるものだと私は改めて感じました。これからもたくさんの人にとってYMCAがキラキラと輝ける成長の場であることを願っています。

今回のプロジェクトに参加させていただき、所長の濱塚さん始め、スタッフの皆さまに紙面をお借りして感謝とお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。また会える日を楽しみにしています。

夏はやっぱりキャンプ!!

8月はキャンプが盛りだくさん!! 夏休みの一大イベントです!

盛岡YMCAでは“山のキャンプ”・“サッカーキャンプ”・“湖畔のキャンプ”がありました。

そしてこの夏は、大阪と徳島から4名のボランティアリーダーが来て、キャンプに参加してくれました。

とても元気でノリの良いリーダー達で、楽しい思い出をたくさん残してってくれました。そこで、今回は大阪と徳島のリーダーからキャンプの様子や感想を伝えてもらいたいと思います!

山のキャンプ



8月3日～5日まで、“盛岡市外山森林公園”というところに、山のキャンプへ行ってきました。キャンプ当日、天気は晴れ! 絶好のキャンプ日和になりました。みんなの日ごろの行いがよかったのかな? 今回のキャンプでは、チーム対抗でカンガルーリレーや、借り物(人)競争をして、その順位で花火争奪戦をしたり、全員で声をそろえて昆虫体操というゲームをしたり、カブトムシを探しに行ったり、缶けりをしたり…と、いっぱい遊んで、本当に盛り上がりました。また、このキャンプを通して、みんなで“WA”という歌を歌いました。「出会ったみんなはいつまでも仲間さ 離れていてもみんなでこのまずっと手をつなごう」という歌詞の通り、このキャンプで出会ったお友だちは、ずっとずっと大切な仲間だと思います。遊んでいるうちに、グループに関係なく、みんながお友だちに! そんな素敵な関係を、これから色々ところで築いていって下さいね。またいつか会いましょう! 阪本和香奈 (大阪大谷大学 教育福祉学科2年 大阪南YMCAわかばリーダー)



サッカーキャンプ



8月7日～10日、いこいの村岩手でサッカーキャンプに行ってきました。1・2日目は練習、3日目は対外試合で、4日目は盛岡YMCAサッカーの甲子園と呼ばれる「岩手山カップ」で、子どもたちのアツい姿を見ることができました。岩手山カップに向けて、前日の夜から子どもたちだけで話し合っチーム名やキャプテンを決めるなどの準備が進められ、当日にはそれぞれのチームのカラーが出ていて見ているだけでも楽しかったです。水の準備など、初めは上級生に頼っていた低学年の子どもたちも、キャンプが終盤に近づくにつれて自分たちで考えて行動できるようになり、子どもたちが少しずつ成長する姿を間近に見ることができました。私自身、大阪YMCAから派遣という形で盛岡YMCAのキャンプに参加したことで、多くの人に出会い、様々なことを改めて学ぶことができ、良い経験をさせてもらったと思います。

池田ゆかり (大阪女学院大学 国際・英語学部4年 大阪北YMCAちょここリーダー)



湖畔のキャンプ



2泊3日で潟分校にお泊り! 朝、一緒にキャンプに行くお友達、リーダーと初めまして! バスの中では、グループ対抗でゲームをしたり、大きな声で歌を歌ったりして盛り上がりました。みんなと昼食を食べた後は待ちに待ったフリータイム! 体育館ではボール遊び、バドミントン、卓球。外では野球にサッカー、虫やカエルを捕まえているお友達もいたよ! 夜はいきなり電気が消えて…分校中を使った宝探しスタート! 懐中電灯を頼りに、グループのみんなと協力して探しました。

2日目、絶好の湖水浴日和! 湖水浴は冷たくて気持ちよかったね。スイカ割りに挑戦したお友達も。きれいに割れて、みんなでおいしくいただきました。夕食後、キャンプと言えばこれ! キャンプファイヤー! 踊ったり、歌ったり楽しい時間を過ごしました。

キャンプ最終日、1日中フリータイムでみんな思い思いに過ごしました。小川で小魚を捕ったり、缶けりで全力疾走したり、最後まで元気いっぱい遊びました。

3日間、楽しい思い出になりました。このキャンプでの出会い、大切にしたいですね!

濱口直子 (徳島文理大学 児童学科2年 徳島YMCAホットケーキリーダー)



盛岡YMCA宮古ボランティアセンター 8月報告書

8月は子どもたちの夏休みとなり、お盆もあり宮古の人々にとっても行事などがたくさんある期間でした。今年のお盆は宮古の方々の中でも初盆になった方が多く、特別なお盆になったと思います。犠牲者の方々のご冥福をお祈りいたします。

7月の後半から宮古市も夏休みとなり8月6日には南公園の仮設住宅ではたこ焼・焼きそばに加え、スイカ割りとスイカの種飛ばしを行いました。4歳から小学校6年生までの子どもたちが仮設住宅となっている公園の脇で無邪気に笑顔を見せながら遊ぶ姿は大人の方々にも元気を与えたようで笑顔で見守るお父さんお母さんがたくさんいらっしゃいました。(大塚)



南公園仮設でたこ焼・焼きそば・スイカ割りをしました。
(8月6日 南公園仮設)



ボランティアの方がバルーンアートを行っていただきました。
(8月6日 南公園仮設)

「YMCA」と背中に大きく書かれたハッピーを着て、たこ焼き・焼きそばを提供。お祭りの屋台みたいです。
(8月6日 南公園仮設)



お盆期間中はたくさんのボランティアの方々が来ていただきました。
(盛岡YMCA宮古ボランティアセンター)

南公園に集まった子どもたちと一緒に撮った1枚。
(8月6日 南公園仮設)



宮古での活動実績(6月末日のべ人数)
スタッフ数 468人
ボランティア数 1867人

今後、被災地への支援は、長期的に行われて行きます。リアス式海岸の入り江ごとに点在する被災地の復興は、今までの震災に比べ、さらなる困難と長期化が予想されます。

盛岡YMCAは、全国のYMCAの支援を受け、長期的な支援を宮古をベースに行っていく予定です。皆様のご協力をお願い申し上げます。

●救援・復興募金は、次のいずれかの方法でご納入いただけます。

① 郵便振替(同封の払込取扱用紙をご利用下さい。)

口座記号番号 02290-9-54655

※通信欄に 東日本大震災被災地支援募金とご記入下さい。

② 銀行振込み(下記口座にお振込み下さい)

北日本銀行本店 普通預金

口座番号: 7029115

名 義: 盛岡YMCA東日本大震災被災地支援口

理事長 石渡隆司

感謝

2011年度 8月29日現在

順不同・敬称略

●東日本大震災被災地支援募金・献品●

伊藤眞一郎、勝又文子、花田瞳、佐々木良英、高木雄輝、今松桂子、熊谷太、金田節子、伊藤終馬、遠藤雅之、小山ミドリ、東澤香織、サイブ千賀、水田賢次、鶴丹谷三千代、澤目美治、遠藤匠、亀澤明、小林茂元、南原良哉、新里ちえ子、北田アユ子、向山力、荒川眞樹、伊藤克見、伊藤喜代江、清家千晶、村山翔野、長岡正彦、大関靖二、東透、松尾俊介、齊藤稜太、阿部雄偉、長澤博真、鈴木淑久、古澤陽生、吉田光希、末廣光輝、宮本一恵、小笠原誠、岩崎スエ、東澤香織、森山日菜乃、森山幹太、寺田京太郎、寺田欽子、北川けい造、菅恵、カトウアキコ、インダソウ、鈴木聖流、阿部実結、高谷厚子、佐藤江利子、榎林巧、千葉代子、西本作、伊藤直子、サトウシヨウ、遠藤品、ナガイヒロアキ、川坂保宏、宇土澤光里、三上隆生、布川雅樹、金野東輝子、堀田順子、栄角美和、東澤香織、伊藤永子、菊池崇江、太田路子、八幡浜教会、荒川眞輔、サイトウリョウタ、山本真大、松尾聡子、山崎詩織、芦屋ワイズメンズクラブ、JCCNC、聖光学院、千葉明徳短期大学、長浜ワイズメンズクラブ、たちばな建設株式会社、滋賀YMCA、ワイズメンズクラブ 東日本区

9月の予定

★9月23日～9月24日

アドベンチャー9月活動

「秋を満喫しよう」

(於：秋田県仙北市思い出の潟分校)

あのリーダーは今…

8月3日、YMCAの学童の子が太鼓で参加するという話を聞き、仕事が終わってからさんさ祭りを見に行ったら、学生時代一緒にリーダーをやっていた永田千晴さん(はんにゃリーダー)がミス太鼓のたすきを身にまとい、優雅に太鼓をたたいていました。

宮古出身のリーダーで、現在は紫波で保育士をしているそうです。数年ぶりの再会だったので、一人はしゃいでしまいました。やはり仲間と会えるのは、嬉しいですね。

はんにゃリーダーは、来月の巻頭言を書いてくれるのでご期待下さい。

盛岡YMCA スタッフ小川



こぼれ種⑩

「キャンプの力＝自然の力」

日本基督教団内丸教会牧師

(元日本YMCA同盟 主事)

中原真澄

夏休み、今年は震災の影響で早く終わった学校が多かったようです。それでも子ども達にとっては、学校や家庭といった日常の場面から離れて大きく成長する機会でもあります。YMCAの夏といえば、＜キャンプ！＞の一言でしょう。

だいぶ前になりますが、「生きる力」＝前向きに生きていく意欲や努力、工夫をどの程度、身に備えているか・・・を調べた結果を見たことがあります。2種類の体験の有無が大きく影響していることが分かったそうです。その一つが自然体験でした。例えば日の出の瞬間を自分の目で見たことがあるかどうか(私の子ども時代は当たり前だった体験が、今の子どもではごく少数！)もふくめ、自然に触れた体験の有無や程度が、生きる力に影響しているという結果がハッキリと出ていたのです(もう一つについては、またの機会に・・・)。

YMCAで子ども達をキャンプに連れていくと、ほんの数日でしかないのに、子どもがグングンと変わっていくをよく目撃しました。YMCAの場合は、自然体験に止まらず、グループでの活動や研修と体験を積んだカウンセリング・リーダーの存在も大きいのですが、やはり自然の中での生活でなければあり得ない成長だったことは確かです。日の出の前に起き出して、静かな湖の辺り、虫が飛び、魚が動き、鳥が目覚める・・・そんな微かな音を自分の心臓の音と重ねながら聞いていると、自分もこの大きな自然の中で生かされ、繋がっている一つのいのちなんだ・・・誰に言われなくても、体と心に沁みこんでくるのを覚えます。

こうした自然の中で成長するには、せめて3泊以上のキャンプであって欲しい・・・常常、そう感じています。是非、こうした自然体験を積んでいって欲しいと、心から願います。

「天は神の栄光を物語り、大空は御手の業を示す。昼は昼に語り伝え、夜は夜に知識を送る。話すことも、語ることもなく、声は聞こえなくても、その響きは全地に、その言葉は世界の果てに向かう」(詩第19篇)

7月サンデー「アイスを作ろう！」

7月10日(日)にYMCA前潟センターにて「ひやひやアイス作り」が行われました。参加者は子供が15人、リーダーが18人の計33人と今回もたくさんの方が参加してくれました。

まず、くじで3つのグループに分かれてアイス作りを始めました。今回は、材料を入れたボールを氷で冷やしながら、ひたすらかき混ぜるという、「ぐるぐるアイス作り」という方法で作りました。みんな腕がだるくなるまで一生懸命かき混ぜてくれました。疲れたら、グループのお友達やリーダーと交代しながら協力する様子も見ることができました。当日は気温が高かったこともあり、ちゃんと固まるか心配していましたが、すべてのグループで無事アイスを作成させることができました。暑い日にみんなで食べるアイスの味はまた格別でした☆



～表紙より～



「夏のキャンプは開催できないんじゃない？」 5月頃、こんな話がスタッフの間では囁かれていた。震災の影響で大学の授業がずれ込み、ほとんどのリーダーがキャンプに参加できなくなっていた。そんな中、盛岡YMCAの窮地を救うべくはるばるやってきたのが大阪YMCAのこの4人組。左から若葉リーダー、チョココリーダー、チロルリーダー、ホッケリーダー。盛岡駅に迎えにいった時、遠くから見てすぐにYMCAのリーダーだとわかった。優しい穏やかな表情、なんとなく温かい雰囲気。真剣に子ども達に向き合っているとそんなオーラを発し始めるのかな？キャンプが始まると、歌、ゲーム、様々な場面でその実力を遺憾なく発揮してくれた。盛岡に滞在した期間は、10日間、平均睡眠時間は、4時間ぐらいではなかっただろうか？そんなハードな中、持ち前のお笑いのセンスで周囲に元気を与えてくれていた。恐るべし、大阪Y、そして有難う、難波のリーダー達。(濱)